

*本票は概ね該当有りとした場合の記載例を示しているため件名とはリンクしていない。

覚 書 (一 般)

○ 年 ○ 月 ○ 日

工事番号 ○○-△△△

工事件名 ×-----×

工 期 (着手) ○ 年 ○ 月 ○ 日 (しゅん功予定) △ 年 △ 月 △ 日

本工事については、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記事項を守り現場作業員まで徹底します

社 会 名 ○ ○ 建 設
 監 督 員 ○ ○ ○ ○ (印) 現 場 代 理 人 △ △ △ △ (印)

打合せ者	HSOR (監 督) 側 職 名 氏 名		施 工 者 側 職 名 氏 名	
	センター長	おれんじ 太郎 (印)	主任技術者	△ △ △ △ (印)

◎確認事項 連絡先及び工事関係者は、「連絡体制表(様式-5)」「工事関係者届(様式-6)」のとおり

施工位置(軌道からの離れ)	軌道中心から(最小) 2.5 m 程度	
立入禁止さく等の設置	無 (有) 種類: 移動式立入り禁止柵 軌道中心からの離れ: 2.5 m	
触車事故防止	施工位置の区分	軌道内・注意エリア・線路外・検修庫等
	作業等の区分	一般作業・巡視等
	通常適用する列車見張り方式	現物 (ダイヤ) 見張り方式 [列車見通し距離 (c) 200 m] [踏切警報機活用方式 第 種] 不要(線路閉鎖の措置)・別途打合せ(検修庫等)
	列車運行状況が正常でない場合	作業中止・異常時現物見張り方式 [列車見通し距離 () m] [踏切警報機活用方式 第 種]
	別途打合せが必要な項目(様式-2にて取交す)	無 (有) <input type="checkbox"/> 検修庫等で別途定めた列車見張り体制をとる場合 <input type="checkbox"/> 複数の列車見張り体制をとる場合 <input type="checkbox"/> その他
予告中断方式 現物中断方式の適用	無・有 予告中断方式を適用する場合 [作業中断のタイミング: 分前] 現物中断方式を適用する場合 [列車見通し距離 m]	
構造物等施設への影響	無 (有) 遵守事項等 近接する電力柱に、注意喚起標を設置する。	
軌道への影響	無 (有) 遵守事項等 高温時の作業制限を守る。(まくらぎ交換、バラストかき出し)	
お客さま等への影響	無 (有) 遵守事項等 ○○の施工は誘導ロープを設け、多客時間帯は誘導員を配置し、監視を行う。	
工事用重機械	無 (有) 重機械名 軌陸バックホー(路盤改良)	
工事用自動車	無 (有) 自動車名 軌陸ダンプ(道床搬入・搬出)、4tユニック(機材等運搬)、高所作業車	
指揮者・誘導員の配置	重機械指揮者・旅客誘導員・交通誘導員 遵守事項等 重機械指揮者は、高所作業車に配置し架線・電線と2m以上の離隔を確保する	
工事用通路の使用 ・列車間合・線閉手続き時両方適用	無 (有) 別途計画書を提出する。	
建築限界支障の防護措置 ・注意喚起必要・建築限界測定必要 ・建築限界一時縮小・建築限界見通し設置	不要 (必要) ○○工事の施工に当たっては、限界表示のロープを設置する。	
落下・転落の防護措置 ・親綱墜落制止用器具が必要・足場設置	不要 (必要) 高所作業では、安全带使用を徹底する。	
埋設管・ケーブルへの措置 ・確認立会必要・注意喚起必要 ・支障物移転防護必要	無 (有) 別途打合せ	
架空線等及び架線柱への措置 ・き電停止必要・防護必要 ・支障物移転必要	無 (有) 施工中、方法が変更なった際は、別途打合せを行う	
その他保安設備等 ・作業表示標、列警、短絡、ポイント等	無 (有) 作業表示標を建植する。 分岐器つき固め時は、ポイント可動部にバラスト等が乗らないよう、注意する。	
立会を要する工事	無 (有) 立会を必要とする場合は、監督員と事前に打合せを行い、その指示による。	
その他打合せを必要とする 工事内容・項目(「有」は様 式-2を作成・提出する)	HSOR	無 (有) 工事用重機械(注) (地下埋設物) 架空線等 保守用車 線路閉鎖 工事用通路
	部外の 既設構造物	無 (有) 電力線 電話線 ガス (上下水道) その他埋設物等()
その他特記事項 遵守事項等		

※記入欄不足等の場合は適宜別紙を添付する。
(改訂)2026.03

(注) 重機械運転者の配置を要しないものは提出不要とする

覚 書 (一 般)

○ 年 ○ 月 ○ 日

工事番号 ○○-△△△

工事件名 ×-----×

工 期 (着手) ○ 年 ○ 月 ○ 日 (しゅん功予定) △ 年 △ 月 △ 日

本工事については、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記事項を守り現場作業員まで徹底します

監督員 ○ ○ ○ ○ **印**

会社名 ○ ○ 建設
現場代理人 △ △ △ △ **印**

打合せ者	HSOR (監 督) 側 職 名 氏 名		施 工 者 側 職 名 氏 名	
	センター長	おれんじ 太郎 印	主任技術者	△ △ △ △ 印

◎確認事項 連絡先及び工事関係者は、「連絡体制表(様式-6)」**施工打合せWebシステム**のとおり

施工位置(軌道からの離れ)	軌道中心から(最小) 6 m 程度	
立入禁止さく等の設置	無 有	種類: 防護さく 軌道中心からの離れ: 6 m
触車事故防止	施工位置の区分	軌道内・注意エリア 線路外 ・検修庫等
	作業等の区分	一般作業・巡視等
	通常適用する列車見張り方式	現物・ダイヤ見張り方式 [列車見通し距離 () m] [踏切警報機活用方式 第 種] 不要(線路閉鎖の措置)・別途打合せ(車両センター等)
	列車運行状況が正常でない場合	作業中止・異常時現物見張り方式 [列車見通し距離 () m] [踏切警報機活用方式 第 種]
	別途打合せが必要な項目(様式-2にて取交す)	無・有 <input type="checkbox"/> 検修庫等で別途定めた列車見張り体制をとる場合 <input type="checkbox"/> 複数の列車見張り体制をとる場合 <input type="checkbox"/> その他
予告中断方式 現物中断方式の適用	無 有	予告中断方式を適用する場合 [作業中断のタイミング: 3 分前] 現物中断方式を適用する場合 [列車見通し距離 350 m]
構造物等施設への影響	無 有	遵守事項等 近接する電力柱に、注意喚起標を設置する。
軌道への影響	無 有	遵守事項等 高温時の作業制限を守る。(まくらぎ交換、バラストかき出し)
お客さま等への影響	無 有	遵守事項等 ○○の施工は誘導ロープを設け、多客時間帯は誘導員を配置し、監視を行う。
工事用重機械	無 有	重機械名 軌陸バックホー(路盤改良)
工事用自動車	無 有	自動車名 軌陸ダンプ(道床搬入・搬出)、4tユニック(機材等運搬)、高所作業車
指揮者・誘導員の配置	重機械指揮者 ・旅客誘導員・交通誘導員	遵守事項等 重機械指揮者は、高所作業車に配置し架線・電線と2m以上の離隔を確保する
工事用通路の使用 ・列車間合・線閉手続き時両方適用	無 有	別途計画書を提出する。
建築限界支障の防護措置 ・注意喚起必要・建築限界測定必要 ・建築限界一時縮小・建築限界見通し設置	不要 必要	○○工事の施工に当たっては、限界表示のロープを設置する。
落下・転落の防護措置 ・親綱墜落制止用器具が必要・足場設置	不要 必要	高所作業では、安全带使用を徹底する。
埋設管・ケーブルへの措置 ・確認立会必要・注意喚起必要 ・支障物移転防護必要	無 有	別途打合せ
架空線等及び架線柱への措置 ・き電停止必要・防護必要 ・支障物移転必要	無 有	施工中、方法が変更なった際は、別途打合せを行う
その他保安設備等 ・作業表示標、列警、短絡、ポイント等	無 有	作業表示標を建植する。 分岐器つき固め時は、ポイント可動部にバラスト等が乗らないよう、注意する。
立会を要する工事	無 有	立会を必要とする場合は、監督員と事前に打合せを行い、その指示による。
その他打合せを必要とする 工事内容・項目(「有」は様 式-2を作成・提出する)	HSOR	無 有 工事用重機械(注) 地下埋設物 架空線等 保守用車 線路閉鎖 工事用通路
	部外の 既設構造物	無 有 電力線 電話線 ガス 上下水道 その他埋設物等()
その他特記事項 遵守事項等		

※記入欄不足等の場合は適宜別紙を添付する。

(注) 重機械運転者の配置を要しないものは提出不要とする

(改訂)2026.03

架線直下で工事用重機械等を使用する場合の記載例

覚 書

○年 ○月 ○日

工事件名： □□～△△間 ***k m***m 工事

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します。

監督員	△△△ ○○○ (印)	会社名	(株) ○○建設
		現場代理人	◆◆◆ ▲▲▲ (印)
打合せ者	HSOR (監督) 側		施工者側
	職名	氏名	職名 氏名
	センター長	□□□ △△ (印)	主任技術者 ■■■ ▲▲▲ (印)

◎ 確 認 事 項

項 目	確 認 事 項
架空線等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施工着手前に監督員から「架空線等近接作業打合せ書」(写)を受領した後、施工する。 ・ 架空電車線等に接近した場所で、工事用重機械及び工事用車両を使用する場合は、重機械指揮者に架空線との離隔を専任で監視させる。
高さ制限値ならびに高さ制限機能の設定が、①使用の都度、設定が必要か、②使用の都度、設定が不要かのいずれかを明記する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用するユニットについては、以下の高さ制限機能を有したものを使用する(詳細別紙) 2.5m高さ制限(使用の都度、設定が必要)
工事にて当該の工事用重機械等を使用する前までに、確認し監督員へ提出する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高さ制限機能については、工事着手前に線路外にて高さ制限機能が適正に作動している事を確認し、確認した結果を監督員へ提出する。
使用の都度、設定が必要な工事用重機械等の場合に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事管理者は、架線直下での使用の都度、線路外にて高さ制限機能が適正に作動している事を確認する。機能に問題があると判断した場合は使用を中止する。
確認方法を記載する。 例：メジャーポール、レーザー等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制限機能の確認は、メジャーポールにて実施する。
一旦設定した制限高さは、使用中等に変更しないように記載。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設定後は、設定が変更できない措置を施すとともに、設定した高さ制限値を厳守する。
	別紙として、使用する工事用重機械等の寸法や仕様が分かるものを添付すること。

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

覚 書

○年 ○月 ○日

工事件名： ×・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・×

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します。

監督員		△△△ ○○○	会社名		○○○○株式会社
			現場代理人		□□ □□
打合せ者	HSOR (監督) 側		施工者側		
	職名	氏名	職名	氏名	
	センター長	□□□ △△	工事管理者	△△ △△	

◎ 確 認 事 項

項 目	確 認 事 項
架空線等	・ 施工着手前に現場調査及び立会を行い、監督員から「架空線等近接作業打合せ書」(写)を受領する
	・ 架空電車線等から2.0m以内の接近限界を侵す恐れのある作業を行わない
	・ 架空電車線等に近接した場所で、3mを超える長尺物(単管パイプ、鉄筋、足場板等)を使用しない
	・ やむを得ず3mを超える長尺物を使用する等、接近限界を侵す恐れのある作業を行う場合は、絶対に接近限界を侵さない安全措置を施すか、き電停止手配をとった上で作業を行う。(き電停止間合 ○:○○~○:○○)
	※上記の基本的な事項に加え、現場の特状に応じた安全措置を必ず明記のうえ、別紙に架空電車線等を明記した図面を添付すること

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

(改訂)2026.03

覚 書

○年 ○月 ○日

工事件名： ×・・・・・・・・・・・・・・・・×

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します。

監督員	△△△ ○○○	会社名	○○○○株式会社
		現場代理人	□□ □□
打合せ者	HSOR (監督) 側		施工者側
	職名	氏名	職名 氏名
	センター長	□□□ △△	工事管理者 △△ △△

◎ 確 認 事 項

項 目	確 認 事 項	
工事用重機械	使用期間	2026年5月1日～2026年9月21日
	使用機械	名 称：70t吊ホイールクレーン 型式性能：GR-700N-1
	注意事項	・工事用重機械の使用は車両系の資格及び認定証を有し、覚書に届けを提出しているものに限る。 ・工事用重機械を使用する前には始業前点検を行う。 ・工事用重機械を使用する際、重機械指揮者を適正に配置する。 ・アウトリガーの確認を行い、安全装置を確実に作動させる。 ・クレーン使用時は旋回内立入禁止措置をとる。 ・作業終了後は安全な場所に留置して施錠し、鍵は工事管理者が保管する。
	異常時の処置	・直ちに作業を中止して列車防護を行うと共に、監督員に連絡して指示を受ける。

※使用する重機械及び現場の特状に応じた安全措置を必ず明記すること。必要に応じて内容を補足する図面等を添付すること。
※軌条で使用する軌陸タイプについては、絶縁機能等、標準的な構造規格を満たしていることを証明する資料を添付すること。

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

覚 書

○年 ○月 ○日

工事件名： ×・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・×

本工事の施工に当っては、列車の運転保安及び旅客公衆等の安全確保のため、下記確認事項を守り現場作業員まで徹底します

監督員		△△△ ○○○	会社名		○○○○株式会社
			現場代理人		□□ □□
打合せ者	HSOR (監督) 側		施工者側		
	職名	氏名	職名	氏名	
	センター長	□□□ △△	工事管理者	△△ △△	

◎ 確 認 事 項

項 目	確 認 事 項	
○部外の既設構造物	九州電力	
	電力線 (別紙-1)	現況： 有 無 架空・埋設 形状(ヒューム管)
		処置： 表示・移設・撤去・防護 完了日(8/24)
		※移設が完了するまでは表示し、立入禁止措置を取る
	電話線	NTT
		現況： 有 無 架空・埋設 形状()
		処置： 表示・移設・撤去・防護 完了日(/)
	ガス (別紙-2)	西部ガス
		現況： 有 無 架空・埋設 形状(推進管)
		処置： 表示・移設・撤去・防護 完了日(/)
	上下水	〇〇市上下水道局
		現況： 有 無 架空・埋設 形状()
	処置： 表示・移設・撤去・防護 完了日(/)	
埋設物等 (別紙-3)	雨水排水路	
	現況： 有 無 架空・埋設 形状(コンクリートボックス)	
	処置： 表示・移設・撤去・防護 完了日(/)	
	※移設が完了するまでは表示し、立入禁止措置を取る	

注) 記入欄不足や図面等は、適宜別紙を添付する

連絡体制表

工事件名： × ×

◎日々の連絡先

日々の着手・終了の報告	不要 必要	HSOR(甲)側連絡先	〇〇工務センター 0001(000)0002
日々の列車運行状況の確認	不要 必要	HSOR(甲)側連絡先	運転指令 0996(003)0007
施工打合せ	不要 必要	HSOR(甲)側連絡先	〇〇工務センター 0001(000)0002

◎連絡体制

1. いくつかなる場合でも、緊急連絡ができる体制とする
2. 日々の作業時間帯での施工現場との連絡体制の確立が必要な場合は、施工打合せで明示する

職名・資格等名		氏名	昼間の連絡先	夜間の連絡先
H S O R (甲) 側	監督員	おれんじ 一郎	***-***-****	***-***-****
	監督者	工務 太郎	***-***-****	***-***-****
	運転指令			0996-**-****
乙 側	現場代理人	□□ □□	***-***-****	***-***-****
	主任技術者	△△ △△	***-***-****	***-***-****
	軌道工事管理者	〇〇 〇〇	***-***-****	***-***-****
	本支店等	〇〇支店	***-***-****	***-***-****
丙 側	記載例は、甲及び乙のみの取交わしの場合 甲、乙及び丙の場合は、この丙側欄に記載する			

※1) HSOR発注の際は甲側をHSOR監督員等、乙側を施工者とする
 ※2) 部外関連鉄道近接工事の際は甲側をHSOR担当者、乙側を発注者、丙側を施工者とする
 ※3) 甲及び乙のみで覚書及び連絡体制表を取交わす場合は、丙側欄に斜線を引く
 ※4) 変更内容及び追加事項は朱書きとする
 (改訂)2026.03

工事関係者届

工事件名： ×・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

{(工管者)又は(軌工管)}と{(現代人)又は(主任技術者)}が兼務する際は、記事欄に記載して届出る

工事関係者を下記のとおり定めましたので、別途資格者証の写し

◎工事関係者名簿

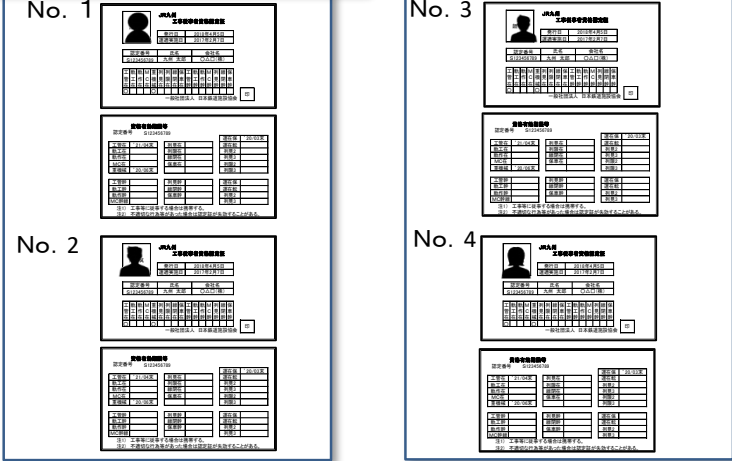
資格名	氏名	添付番号	資格の有効期限	運転保安講習等の有効期限	記事 (削除等の朱書)
現場代理人	八代 一郎				兼務 (軌道工事管理者)
主任技術者	出水 二郎				兼務 (軌道工事管理者)
軌道工事管理者	八代 一郎	No. 1	22.9末	23.3末	兼務 (現場代理人)
	出水 二郎	No. 2	23.9末	23.3末	兼務 (主任技術者)
	川内 三郎	No. 3	22.9末	22.3末	
軌道工事管理者 (線閉)	八代 一郎	No. 1	22.11末	23.3末	
	出水 二郎	No. 2	22.11末	23.3末	
軌道作業責任者	佐敷 四郎	No. 4	22.10末	23.3末	更新10/14
	阿久根 五郎	No. 5	22.10末	22.3末	資格失効 (更新無) 10/14
列車見張員	高田 六郎	No. 6	24.8末	22.8末	
	日奈久 七郎	No. 7	24.8末	22.8末	
特殊運転者 (MC)	野田郷 八郎	No. 8	24.3末		
特殊運転者 (MTT)	折口 八郎	No. 8			

【工事管理者等の運転保安講習】
有効期限は資格認定証裏面の「運在保」「運在転」欄の期限を入力する
【列車見張員の更新講習会】※限定も同様
1年目→資格有効期限の2年前まで
2年目→「列見2」受講済なら有効期限の1年前まで
3年目→「列見3」受講済なら資格有効期限まで
<例>
列見在の資格有効期限が'23/09末で、「列見2」受講済みの場合、資格有効期限の1年前の'22/09末が有効期限

有効期限は資格認定証裏面記載の各資格の有効期限等を記入する

当該件名の体制について整理して記載する(資格者証に記載の資格名を載せる)
資格名ごとに並べられているのが望ましい

職名毎に同一氏名が複数記載されている場合でも、写しの添付は共通(1枚)でよい。その際、添付番号を同一とし、参照しやすいように作成する



添付書類の例
(レイアウトは任意であるが、添付番号を順々に付け、分かるように追記する)

- 1) 本様式は管掌 ()
- 「運転保安講習等」
① 運転保安講習会
② 当社より出向または退職された社員の前年度に受講した10条教育
③ 列車見張員の更新講習会
(新規又は継続講習会を受講した年度については更新講習会の受講は不要)

個別に取交わり際に使用する
(主任技術者を含める)
()
日を含む)
いるため添付不要とする

7) 工事関係者から外れた場合や、資格が失効した場合は双方朱書きで抹線により削除する
8) 運転保安講習等の受講が従事の要件となる資格については、有効期限を記入する
(改訂) 2026. 03

